



はくほうWalker

No.4

広報誌名「はくほうWalker」
はくほう会セントラル病院は地域
住民や患者様と共に歩むという想
いが込められています。

新年企画 & 平成最後の企画

謹んで新年のご挨拶を申し上げます
院長挨拶、クレド制定、新入職の医師紹介

はくほう会セントラル病院の歩み

あんなことも、こんなこともありました・・・
そして、次へ

整形外科

当院整形外科を
ご紹介



診療情報課

病院と患者様とをつなぐ受付の
プロ集団をご紹介します



東棟 4 階病棟をご紹介します
(地域包括ケア病棟 & 療養病棟)

昨年 9 月に東棟 4 階は機能の
異なる 2 つの病棟に分けられました。
今回は、東棟 4 階病棟をご紹介します
します！





謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。

本年は平成最後の年であるとともに、5月から新元年が始まる区切りの年となります。この区切りの年が皆様にとりまして幸福な年でありますように祈念します。

ところで、昨年の漢字は「災」でした。6月に大阪府北部地震、7月には西日本豪雨があり、夏は酷暑で苦しめられました。さらに、9月には台風21号が関西に上陸し、関西一帯は大きな被害を受けました。当院も1日余り停電となり、病院機能の低下をきたし、当院に入院中や外来受診の患者様やご家族様には大変ご迷惑をおかけしました。しかし、災害時には、病院は災害医療の中心的役割を担う役割があり、大変重要な存在であります。当院の法人の伯鳳会では、毎年持ち回りで防災訓練を行っていますが、昨年はちょうど当院が担当の年であり、7月に防災訓練を実施しました。幸い、園田競馬場、尼崎警察署、尼崎消防署、看護学校などの協力を得て、園田競馬場がテロに襲われ、多数のけが人が発生した設定で防災訓練を行いました。猛暑の中、私を含め初めての災害訓練で戸惑う人もいましたが、皆で力を合わせて無事に防災訓練を行うことができました。おかげで、この訓練を通じて当院職員の防災意識が高まり、当院が台風21号で停電になった際には、その経験を生かし、病院が一体となり対応することができました。今後、災害マニュアルの作成や定期的な防災訓練などを通じて、当院は災害に強い病院を目指していきたくと考えています。

当院は今年中に病院機能評価機構の受審を行い、その認定を受けることを目標に立てました。病院機能評価とは病院の組織的活動を第三者機関に評価していただき、病院の優れている点や課題などを明らかにしていただくものです。審査の結果、一定の水準を満たしていると認められた病院に対して認定証を発行していただけます。病院機能評価機構の受審するためには今後病院挙げての色々な準備が必要です。病院機能評価機構の認定を受けることにより、今まで以上に患者様に対して質の高い医療を提供できることが可能になると考えています。今後、当院はさらに地域の皆様に信頼され、安心して受診していただける病院を目指していますのでご期待ください。

昨年末にバリで開催された博覧会国際事務局総会で6年後の2025年の国際博覧会（万博）が55年ぶりに関西（大阪）で行われることが決定しました。最近では、オリンピックを含めて色々なイベントの開催が首都圏に集中し、関西の地盤沈下が指摘されていました。今回の万博の開催をばねにして、関西がこれから元気になり、活気が出てくることを期待しています。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



院長 古賀 正史



クレド（職員行動指針）を制定しました！

クレド(Credo)とは「信条」「志」「約束」を意味するラテン語で、企業活動の拠り所となる価値観や行動規範を簡潔に表現した文言、あるいはそれを記したツールを指します。つまり...

組織の従業員が同じ価値観や行動規範の組織定義を共有し、全ての組織行動においての価値判断とする。また、それは同時に顧客に対する行動を約束するものとなります。

我々は、このクレドに基づいた精神と行動を実践し、患者様により良い医療サービスを提供するように努めて参ります。

クレド（職員行動指針）

1. 私たちは、お客様にとって親近感の湧くあたたかくてやすらぐ施設となります。
2. 私たちは、最良の施設と人を提供することで、お客様のニーズに応え、お客様から選ばれる施設となります。
3. 私たちは、すべてのお客様とお客様を愛する方々に対し、平等で差別のないサービスを提供します。
4. 私たちは、医療・介護・福祉・教育の先進的な複合サービス提供体となります。
5. 私たちは、地域の方々にとって頼りになる身近な存在となります。

新たに入職した医師をご紹介します

内科・アレルギー科 部長 善本 知広



この度、はくほう会セントラル病院に着任しました、内科・アレルギー科の善本です。私は、1984年、兵庫医科大学卒業と同時に同大学の第三内科に入局し7年在籍した後、基礎医学の免疫学講座にて27年間、教育と研究を続けて参りました。2009年から教授として「アレルギーを科学して、アレルギーを治す」を座右の銘の基、様々なアレルギー疾患、術後腸管癒着や子宮内膜症の発症メカニズムの解明と治療法の開発に従事しました。しかし、最終的には直接患者さんと接することが大切だと考え、昨年春から臨床現場に復帰いたしました。

趣味でアルトサックスを12年程習っています。年に1回のプロミュージシャンとのライブ演奏を楽しみにしています。昨年からは、歩いて10分程の須磨海岸での釣りを再開しました。還暦を過ぎ、趣味を楽しみながら仕事に全力で取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

リハビリテーション科 部長 伊藤 隆彦



今年の年頭から、はくほう会セントラル病院の回復期リハビリテーション病棟で働くことになりました。

10年前までは、脳神経外科で手術を中心に働いていました。その後は、回復期リハビリテーション病棟で主に神経系疾患のリハビリテーションを担当してきました。

仕事で大切にしていることは、現場の情報です。常にディスカッションを大切にチーム医療を目指しています。

座右の銘は「人間万事塞翁が馬」です。ある時点での評価が事ではありません。これから、皆さんと一緒に頑張りましょう！

はくほう会セントラル病院の歩み



2019



第3次 病床再編成 254床へ(6床増床)
急性期病床66床(重症ユニット6床)
回復期リハ病床140床
地域包括ケア病床29床 新規開設
療養病床19床

伯鳳会グループ 合同災害訓練を主催

中央棟・東棟 1階フロア改修

外来調剤 院内処方化 開始

第2次 病床再編成 248床へ(8床増床)
急性期病床71床(重症ユニット6床)
回復期リハ病床140床
療養病床37床

シャトルバス運行開始

先進リハビリテーション開始
(医薬品、ロボット、電気治療、再生医療)

第1次 病床再編成
急性期病床70床(重症ユニット5床 新規開設)
回復期リハ病床132床
療養病床43床 新規開設

AMAT隊 結成(全日本病院医療支援班)

訪問リハビリ 開設

電子カルテシステム 新導入

回復期リハ病棟 入院料1
体制強化

医療法人伯鳳会へ
経営移管

2015

2018

2017

2016

Hakuhokai Central Hospital History

病棟をご紹介します

平成30年9月から地域包括ケア病棟29床、療養病棟19床の2病棟となり新しく東館4階でOPENとなりました。

地域包括ケア病棟は、急性期での治療が終了し自宅へ帰られる患者様が治療や入院生活援助だけでなく、リハビリの継続や地域連携室・ケアマネジャーなど色々な職種と連携を図り、安心して自宅へ帰れるように看護・支援を行っている病棟です。元気になられ安心してご自宅へ帰られるときの笑顔を励みに毎日スタッフも笑顔で頑張っています。



東4階
竹之内 課長 野田 係長代行

個別リハビリ

患者様

生活ケア

アクティビティケア

当院の地域包括ケア病棟では、患者様の状態に応じて、「個別リハビリ」「アクティビティケア」「生活ケア」の3つの関わりを実施しています。

ご自身で動けないような患者様には「個別リハビリ」でしっかり身体機能の改善を図ります。

ご自身である程度動ける患者様には「アクティビティケア」として、ご自身で実施して頂く練習を療法士がプログラムし、支援します。

「生活ケア」では、病棟専門職チームが、患者様毎の療養生活に応じたケア方法や、ご自身で自立した生活が行えるようになるための手段などを考え、支援します。



はくほう会セントラル病院 「地域包括ケア病棟」

地域包括ケア病床は、平成26年に新設された病床です。

急性期の治療が一段落した患者様が、すぐに自宅や施設へ退院することに不安がある患者様に対して、医療管理を継続して行い、退院を目指していく病床です。

当院の地域包括ケア病床は29床を平成30年9月に開設しました。自宅や施設、つまりは病院から地域へ復帰できるように必要に応じた医療を実施して参ります。

入院等に関するご相談は、当院の地域連携室にお問い合わせください。

地域包括ケア病棟
～東4A～

東棟 4階

医療療養病棟 ～東4B～

療養病棟は、医療的な援助が必要な患者様へ医療的ケアや日常生活援助をさせて頂いています。長期の入院となる方も多く、患者様・ご家族様が安心して療養して頂けるように毎月の面談や日々のコミュニケーションを大切にしています。また、リハビリセラピストと協力し、患者様の状態に合わせた離床（車椅子乗車など）や運動などを行い、拘縮予防や褥瘡予防に取り組んでいます。患者様とのリハビリや日常生活援助などを通して、スタッフもちょっとした変化にやり甲斐や喜びを感じています。いつも明るく笑顔の絶えない病棟です。



療養病棟は、
長期入院生活
となる場合が
多く、最期を
看取る場合も
あります。
だからこそ...

患者様の尊厳・QOLを考えたケア

- ・療養病棟の入院患者様の尊厳を守り、（長期）入院生活において、QOL（生活の質）の確保を重点的に取り組みます。
- ・広義でのリハビリテーションを展開し、様々なケアを実践します。
- ・褥瘡の発生を徹底的に予防します。
- ・患者様は安心して療養を受けることができ、ご家族様は安心して任せられるように、ケア内容、ホスピタリティを追求し、満足を得られるように研鑽します。



整形外科 紹介

整形外科医の浜脇です。整形外科は今年1月から私（浜脇）が加わり川津名誉院長を中心に高田副院長、杉谷医師の4人体制でチームワークを大切に地域医療を心がけ、常に新しい適切な医療を提供できるように努めています。救急も積極的に受け入れ、骨折、慢性疾患（脊椎疾患、変形性関節症）、関節リウマチ、骨粗鬆症、適応があれば積極的に手術を行っています。特に人工関節手術は昨年に比べ増加しています。

高齢者骨折の原因は骨粗鬆症患者の転倒によるものがほとんどです。100歳を超えても痛みや運動機能に問題があれば手術になるのが整形外科です。骨折を予防する為にも骨粗鬆症治療・予防が大切になります。60歳を超えたら骨密度検査を定期的に受け、早期治療、ロコモ予防を指導します。ロコモとはロコモティブシンドロームの略で「運動器の障害」により「要介護になる」リスクの高い状態になることです。人間は運動器に支えられて生きています。運動器の健康には、医学的評価と対策が重要であるということを日々意識することが大切です。

園田駅や病院周辺の方々をみていますと、いかにもO脚で変形の強い膝の方、痛そうに歩行している方を散見します。そういう方をお見かけすると「手術したらこれからもっと好きなことが出来るのに」とつい思いしまいます。おそらく年のせいにして我慢してるのだろうと…。当院の特徴として急性期病棟での治療の後、リハビリが必要な患者さんは他院を紹介しなくても地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟へ移り、満足いくリハビリテーション医療を享受できるメリットもあります。

腰痛、関節痛、神経痛、筋肉痛等、整形疾患を抱えている方はお気軽にご相談ください。新しい適切な治療を提供します。



整形外科医
浜脇 杉谷 川津 高田

【当院での人工股関節全置換術（THA）の特徴】

1.早期社会復帰が可能な人工股関節手術（THA）

2.動作制限のない生活ができる人工股関節

現在、人工股関節手術（THA）後に、動作制限を強いられる場合がありますが、当院ではTHA術後でも、自転車・正座・蹲踞・和式トイレ・軽いスポーツなどが可能で基本的に動作制限はしていません。

3.MIS（低侵襲手術）

従来は人工股関節手術（THA）には20～25cmの皮膚切開が必要でした。

当院では患者の体格、骨形状に合わせ後側方・前側方アプローチを使い分けます。

筋肉切離型MIS-THAの特徴

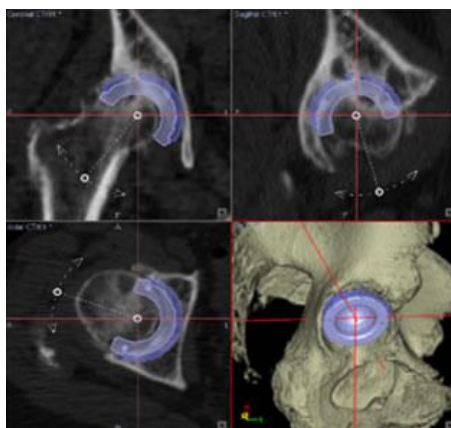
8-10cmの小さな皮膚・筋肉切開で後方より股関節に進入して手術を行ないます。

筋非切離型(筋温存型)MIS-THAの特徴

8-10cmの小さな皮膚・筋肉切開で前方より股関節に進入して筋付着部を切離せずに筋間を分けて股関節に到達して手術を行います。

【3次元THA術前計画】

術前にCTデータを解析し、患者様の骨の形状にマッチした**最適の人工股関節を選択**します。本システムを導入している医療機関は全国でも数少ないのが現状です（一般的にはトレーシングペーパーに2次元（平面的）に作図して人工股関節の術前計画を立てているのが現状です）。



整形外科 外来診察日

(月)：川津（再診）、高田（初診）
(火)：杉谷、浜脇
(水)：川津（初診）、杉谷（再診）
(木)：高田（再診）、杉谷（初診）
(金)：川津、浜脇
(土)：高田

(木) 14:00～16:00：杉谷

※休診の場合がありますので、お問い合わせください。

診療情報課 紹介

病院に来院された方々が最初に立ち寄られる場所が診療情報課です。

現在、外来受付担当者8名と入院担当者5名の計13名で病院の顔とも言える《総合受付》で各種ご案内をしております。

外来初診・再診、入退院の受付、面会者案内、保険証に関すること、治療費等の問い合わせ、各種書類のお預かり、一般健診や市健診、予防接種の対応もしております。

私たちは直接治療に関わることはできないので、患者様やご家族の不安を少しでも和らげることができる様に皆さんの立場に立った対応を心がけております。何か困ったことや疑問に思ったことがあれば、診療情報課へお声かけ下さい。病院の窓口となって、各部署とも連携を取り合い、患者様のお声に応えていけるように努めて参ります。

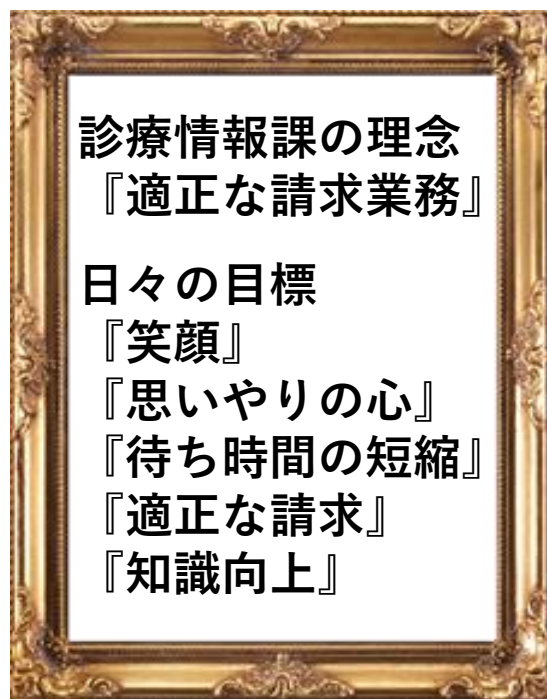
また、私たちが診療行為の計算や診療報酬明細書の作成、外来治療費、入院費の会計と院内薬局への案内を行っております。皆様来院時から診察終了時までをしっかりサポートさせていただきます。



診療情報課の理念 『適正な請求業務』

日々の目標

『笑顔』
『思いやりの心』
『待ち時間の短縮』
『適正な請求』
『知識向上』



2018 忘年会

2018年12月21日に、はくほう会セントラル病院・老健はくほうの忘年会が催されました。「職員会」メンバーの用意周到な準備のおかげで、当日は大いに盛り上がりました！

2019年も頑張ろうと士気が高まりました。

ダンスを披露してくれた2018年入職の皆様お疲れさまでした。



第2回 伯鳳会 尼崎地区 学術発表会

2019年1月19日に「はくほう会セントラル病院」「老健はくほう」の尼崎地区で去年に続き2回目となる学術発表会を開催します。

今年のテーマは「High Quality」です。患者様に還元できるように職員一同頑張ります！



病院ホームページのご案内

伯鳳会グループ、はくほう会セントラル病院では、ご利用いただく全ての方々に、見やすく、分かりやすく情報をお伝えできるように努めて参ります。



はくほうかい



ホームページ アドレス <http://www.amahakuho.jp/>

facebook もやっています



(Facebook, Inc.)

【編集後記】

「平成最後…」昨年末から、よく耳にするワードです。平成日本は平和な時代でしたが、災害に多く見舞われたとも言われています。しかしながら、こう思うのです。自然災害発生を防ぐことはできなかったが、戦争は防ぐことができた。平和は作り出せるものだ。と。「平成最後…」というワードだけではなく、その時代の中身を振り返り、そして新たな時代を迎えたいものです。

「新しい時代へとページを開き、平成というページを閉じる」意味を込めて、表表紙は鮮やかに撮影し、裏表紙はセピア色で撮影しました。ちなみに、どちらの写真も元旦に撮影しました。快晴でよかった！

今年も皆様にとって、幸多き1年でありますように。

はくほう会セントラル病院 広報委員会



医療法人伯鳳会

はくほう会セントラル病院

兵庫県尼崎市東園田町4丁目23番1号

TEL : 06-4960-6800 (代表)

FAX : 06-4960-6900

